

# 1 数を使わないたし算

$$\begin{array}{r} 148+ \\ +60 \end{array}$$

## ▶たし算の全体像

これまで学習してきた「一対一対応」「量対量対応」「数値化」の場面では、基準物の数が課題途中で変化することはありませんでした。これから勉強していく過程では、基準物の量が変化します。

安曇野プランでは、「量が変わっていく場面をどう解決するか」という観点で、たし算の勉強を進めます。実際に式を立てて計算練習をする前に、数を使わずに対応物やキューブなどを使ってたし算の場面を子どもが解決していくことで、「変化に対応する力」を育てます。

## ▶数がわからなくてもたし算の場面を解決できる

安曇野プランの特徴の一つに、「数がわからなくても演算の場面を解決できる」ということがあります。量対量対応の視線対応さえできたら、さまざまな場面で来たお客さんに「ぴったり」の食べ物を用意できるということです。

実はこの方法は日常でもよく行なわれている方法です。例えば会合などで、参加者にお茶を出すとき。もう来ている人たちにはお茶を出したところに、遅れてきた人たちがいました。これはたし算の増加の場面ですが、わざわざ合計数を出す人はいないと思います。遅れてきた人のふんだけお茶を追加します。

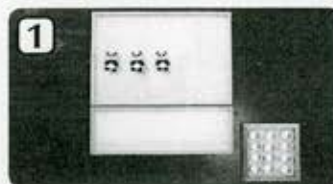
このように、量だけで場面を解決する方法は日常生活の中でも役に立つ方法です。さっそく、数を使わないたし算の場面を見てみましょう。

## ▶視線対応で「たし算の場面」を解決

準備物 基準物 対応物 ナビゲーター人形 基準物トレー  
対応物トレー スtockトレー 看板 カーテン

机の上

場面進行



1

- ・Stockトレーは子どもの近くに置く。
- ・「お泊りにきました」などと言いながら、基準物を基準物トレーに並べる。



2

- ・「寝る前に朝ごはんの用意、お願いします」と頼む。
- ・子どもは視線対応で、対応物トレーに対応物を準備する。



3

- ・「おやすみなさい」とカーテンをかけ、基準物を隠す。



4

- ・「遅れてごめんなさい。私たちもお泊りに来ました」と、追加分の基準物を基準物トレーに並べる。



5

- ・子どもは対応物を用意する。
- ・様子を見て、用意ができていなくても、「おふとんに入っていいですか?」と子どもに聞いて「いいです」と答えたら、遅れてきた基準物をカーテンの中に入れる。